

新技術・情報名	踏込式ハウス豚舎における肉豚の飼養管理技術		
実施場所	三重県農業技術センター畜産部	分類	③

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

踏込式ハウス豚舎は建築の簡便さ、格安の施設費、糞尿処理の労力と費用の大幅な減少などの利点から急速に普及したが、飼養管理、畜舎環境及び衛生面などについて不明な点が多い。そこで、踏込式ハウス豚舎における肉豚の効率的な飼養管理技術を究明した。

ハウス豚舎で肉豚を飼養した場合、夏期の発育が一般の豚舎に比べて20%程度悪くなり、夏期の発育低下防止対策が重要である。冬期の発育は逆にハウス豚舎の方がやや良くなる成績が得られた。夏期の発育低下防止対策として醗酵床の厚さを10~15cm程度とし、細霧噴霧(3分噴霧、15分休止)を行うと日増体重、飼料要求率が改善された。

飼養密度は、高密度とすると発育の低下、醗酵床の泥ねい化が起きるので1頭当り1頭を基本とし、それよりやや低密度であることが望ましい。

2) 技術・情報の適用効果

踏込式ハウス豚舎の効率的な利用により、施設費の低減及び糞尿処理の労力と費用の大幅な減少を図る。

3) 適用範囲

踏込式ハウス豚舎における一貫および肉豚生産農家

4) 普及指導上の留意点

1. 寄生虫の寄生による発育の低下及び肝臓廃棄が多くなることが予想されるので、入舎前に駆虫を確実に行う。
2. 醗酵床の管理が不十分であれば湿潤し、泥ねい化しやすいので注意を要する。
3. 夏期の遮光と冬期の換気に留意する。(畜産環境研究室 坂倉元)

2. 具体的データ(図表)

ハウス豚舎及び一般豚舎における発育成績

	夏 期			冬 期		
	D.G	F.I	F.C	D.G	F.I	F.C
ハウス豚舎(無添加)	629 ^a	1.96 ^{1/4}	3.11	782 ^a	2.61 ^{1/4}	3.84
ハウス豚舎(添加 [*])	617	1.88	3.04	721	2.53	3.26
一般豚舎	818	2.37	2.89	757	2.52	3.32

*醗酵菌を3%添加した飼料を給与した。
FI:飼料摂取量/日・頭、F.C:飼料要求率

夏期における細霧噴霧の効果

	細霧 噴霧		細霧 休止	
	D.G(%)	F.C	D.G(%)	F.C
夏 期	788 ^a	3.93	713 ^b	4.4

噴霧時間: 8時~18時 噴霧サイクル: (噴3分、休12分)
a b 間に有意差あり(P<0.05)

飼養密度が発育に及ぼす影響

	高 密 度 区			低 密 度 区		
	D.G	F.I	F.C	D.G	F.I	F.C
夏 期	614 ^a	1.96 ^{1/4}	3.19	669 ^b	2.16 ^{1/4}	3.23
冬 期	785	2.77	3.53	827	2.81	3.40

高密度区: 夏期 1.04頭/m² 冬期 1.17頭/m²
低密度区: , 0.67頭/m² , 0.77頭/m²

3. その他特記事項

研究課題名: ビタミンC使用による踏込式ハウス豚舎利用技術確立試験
期 間: 昭和59~62年